

スーパーティーチャー招聘「教育講演会」を開催

平成 31 年 2 月 15 日（金）に名桜大学多目的ホールにて、北部教育研修センター主催の「教育講演会」を開催いたしました。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教師のより一層の授業づくりの創意工夫が求められています。児童生徒の主体的な学びを促すために、教師はどのように関わるのが望ましいのか、深い学びの教材はどのように工夫したら良いのか等、授業づくりの悩みは尽きません。

そこで今回は、講師に市川伸一東京大学教授を招聘し「教えて考えさせる授業」の視点から「習得における『主体的・対話的で深い学び』～教授と活動のバランスに配慮した授業づくり～」をテーマに講演をしていただきました。日々奮闘しながら教壇に立つ先生方の授業力向上に向けて多くの示唆を与えてくれる内容でした。厳しい日程でしたが、約 140 人の先生方が参加しました。

参加者から「意味を理解すると、深い理解につながるという具体的な例があり分かりやすかったです。児童の理解を確実なものにするためには、必要だと思っていたが、教授もやはり必要であることを知り安心しました。それを削ってと言われ続け苦しかったので、今回の講演を聞くことができて良かったです。“教える”だけではなく“考えさせる”とのバランスが大切であることを理解しました。児童が自分の言葉で説明するということができるのと深い理解ができたということだと感じました。教授と活動のバランスが難しいと感じていたので、今回、講演を聞けてとても参考になりました。～教授と活動のバランス～という副題にひかれて参加、教えた上で活動する。一度やってみたいですね。“授業は雲の上のやりとり”ということばにギクリとしました。“わかる人が上空でやっていて、わからない人は見上げている”二極化している理由はここにあるのかも知れないと感じました。少し授業の仕方を考え直してみたいと思います。授業構成の工夫、深い理解、深化の意味、またそのプロセスをどのように工夫するかがこの講義を通して考えることが出来たと思います。教えて考えさせる授業は、今までにない考え方でした。予習をさせ、みんなが知っている状態で授業を進め理解深化問題で学びが深まることが参考になりました。」という多くの感想が寄せられました。「後半のペア協議、その共有の時間があつたので、とても良かったと思います。」というコメントもありました。

講師への質疑の時間を設けられなかったことは残念で、深くお詫び申し上げます。次回はさらに期待に添える講演会を企画していきたいと思っております。

学年度末のお忙しい中、講演会に参加していただきました皆さまに心より感謝申し上げます。



写真 市川伸一教授のご講演の様子

（文責 平成 31 年 2 月 20 日 北部教育研修センター長 高安美智子）